

平成18年度 政策行政課題研修
地域福祉計画について

と き：平成19年（2007年）2月7日（水） 午前9時30分から
ところ：吹田市文化会館（メイシアター）集会室

●○プログラム○●

9：30 開会

9：35 基調講演「吹田市地域福祉計画のあらましと庁内連携について」
吹田市地域福祉計画策定委員会委員、同作業部会長
・華頂短期大学教授 藤井 伸生 さん

10：00 シンポジウム
「コミュニティソーシャルワーカーの役割と地区福祉委員会活動について」

パネラー

吹田市社会福祉協議会副会長、藤白台地区福祉委員長
北千里地区民生委員・児童委員、吹田市地域福祉計画策定委員会委員
立川 浩次 さん

吹田市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係
千里ニュータウンブロック コミュニティソーシャルワーカー
森本 大介 さん

コーディネーター 藤井 伸生 さん

11：00 質疑応答・ディスカッション

11：30 閉会

問い合わせ先：福祉総務課地域福祉係
真柄（2512）、吉村（2513）

吹田市地域福祉計画

いのちとくらしを守り、
一人ひとりが輝くまちづくり



研修資料一覧

基調講演レジュメ「地域福祉計画のあらましと庁内連携」 2ページ

シンポジウム

- ・ 社会福祉協議会・地区福祉委員会の活動について 3ページ
- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の目指すもの 5ページ

<別添資料>

- ・ 吹田市地域福祉計画概要版

- ・ 吹田市地域福祉計画策定 地域検討会（地区の福祉を語るつどい）報告書

平成16年(2004年)11月から平成17年(2005年)2月にかけて、小学校区単位の開催を基本として、市内33か所(33地区福祉委員会の全域)で、社会福祉協議会及び同協議会地区福祉委員会との共催で開催しました。参加者人数は延べ1,419名でした。報告書には、各地区の人口や世帯数、高齢化率、年少人口率、施設分布図に加え、地区の福祉を語るつどいで出た主な意見を掲載しています。

- ・ 地域福祉市民フォーラム「みんなでつくろう、未来(あす)のすいた」議事録

平成18年(2006年)6月29日(木)午後7時から、地域福祉市民フォーラム「みんなでつくろう、未来(あす)のすいた～協働ですすめる「すいた版・地域福祉」のこれから～」を開催し、約150名の参加がありました。

まず、吹田市地域福祉計画策定委員会委員長であり、同志社大学教授の井岡勉さんに「吹田市地域福祉計画のあらまし」と題して基調講演をいただきました。

その後のシンポジウムでは、「協働ですすめる「すいた版・地域福祉」のこれから」と題し、吹田市地域福祉計画策定委員会委員及び同作業部会長であり、華頂短期大学教授の藤井伸生さんにコーディネーターをお願いし、地域福祉計画策定に関わっていただいた、色々な地域福祉活動を実践的に行っている方々から地域福祉計画に込めた思いやこれからの抱負を語っていただきました。

「地域の人と協働できる職員育成のための地域福祉活動体験実習」

報 告 書

平成 20 年（2008 年）11 月

吹田市 福祉保健部 地域福祉室 福祉総務課

1 吹田市地域福祉計画について

平成 18 年（2006 年）5 月に「いのちとくらしを守り、一人ひとりが輝くまちづくり」をめざして策定した「吹田市地域福祉計画」は、市民の自主的な地域福祉活動を活発化し、行政もその役割を発揮しながら、協働して、市民一人ひとりの地域でのくらしを支えるための仕組みをつくっていかうとするものです。

この計画の推進にあたっては、公と民それぞれの役割を明確にしながら、市民参加と公民協働で進めていく必要があります。

2 吹田市地域福祉計画推進の経過

吹田市地域福祉計画策定後は、①地域福祉計画の周知、②地域福祉活動や行政サービスの周知、③地域福祉について考える場の提供、という3点に主眼を置いて推進してきました。具体的には、地域福祉市民フォーラムの開催、地域福祉読本の作成、市報やホームページなどでの PR などを行いました。

また、公民協働で計画を進めていくためには、職員が地域に出向き、住民の皆さんと一緒に地域の課題を考えていくことが必要であることから、①吹田市民生・児童委員協議会の各地区委員会に出向いての地域福祉講座、②吹田市社会福祉協議会地区福祉委員会への全地区でのヒアリング、③吹田市地域福祉計画推進モデル地区の設定などを行ってきました。

しかし、地域福祉計画を公民協働で進めていくにあたり、市職員がもっと地域に出てきて、一緒に地域の課題を考えてほしいという声が多くあがっています。また、「地域福祉」についての職員への理解をもっと深めていくことが、公民協働における「公」としての役割を果たすことにつながることから、職員への意識啓発が現在の課題です。

3 地域福祉活動体験実習実施の目的

- (1) 市民と行政のパートナーシップで地域福祉計画をすすめていくため
- (2) 地域福祉計画や地域福祉活動について職員への周知をはかるため
- (3) 実際に地域福祉活動に参加することで、民の役割である「地域福祉活動の推進」を理解し、地域福祉計画や地域福祉推進における公民協働についての理解を深めるため

4 参加者数及び内訳

(1) 参加人数 28名

(2) 所属別

総務部	人事課	1名	福祉保健部	福祉総務課	3名
	情報政策課	1名		生活福祉課	2名
市民文化部	市民協働推進室	4名		亥の子谷地域保健福祉センター	1名
	市民課	1名		総合福祉会館	1名
産業労働にぎわい部	産業労働室	1名		介護保険課	1名
児童部	こども政策室	1名		障害者くらし支援室	2名
	子育て支援課	1名		国保高齢者医療室	1名
環境部	生活環境課	1名	学校教育部	学務課	1名
都市整備部	建築指導課	1名		指導課	1名
水道部	工務室	1名	地域教育部	生涯学習課	1名
				青少年野外活動センター	1名

(3) 役職別

課長級 1名 課長代理級 2名 係長級 3名 係員 22名

5 事前説明会

●平成20年(2008年)9月25日(木)午後1時30分～午後4時

保健センター研修室 出席14名

●平成20年(2008年)10月2日(木)午前9時30分～正午

市役所研修室 出席12名

●内容

- 1 吹田市地域福祉計画について(30分)
- 2 社会福祉協議会、地区福祉委員会活動について(50分)
- 3 ①コミュニティソーシャルワーカーについて(10分)
②コミュニティソーシャルワーカーとの座談会(40分)
- 4 体験実習について説明
- 5 アンケートについて説明

●配布資料

次第、グループ分け図、地域福祉計画説明パワーポイント資料、アンケート
地域福祉計画概要版、地域福祉読本、地域検討会(地区の福祉を語るつどい)報告書
社協案内、社協だより、コミュニティソーシャルワーカーリーフレット
コミュニティソーシャルワーカー活動報告書、小地域ネットワーク活動報告書
ボランティアセンターリーフレット

6 地域福祉活動体験実習への参加

- 実施時期 平成20年（2008年）10月から11月
- 子育てサロン 7地区 ●いきいきサロン 8地区
- 原則として社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー1名、福祉総務課職員1名が同行

活動名	月日	時間	場所	参加者数
竹見台地区いきいきサロン	10月17日（金）	11:00～	千里南公園	2
古江台地区子育てサロン	10月21日（火）	10:30～	古江台市民ホール	2
千三地区いきいきサロン	10月21日（火）	14:00～	千三地区会議室	3
藤白台地区いきいきサロン	10月22日（水）	10:00～	藤白台市民ホール	2
五月が丘地区いきいきサロン	10月27日（月）	13:30～	東佐井寺地区公民館	2
桃山台地区いきいきサロン	10月31日（金）	13:00～	桃山台市民ホール	2
千新地区子育てサロン	11月5日（水）	9:30～	千里新田小学校	2
高野台地区子育てサロン	11月6日（木）	10:00～	高野台市民ホール	3
西山田地区いきいきサロン	11月6日（木）	13:00～	西山田地区集会所	2
南山田地区いきいきサロン	11月10日（月）	13:30～	月見が丘集会所	2
千一地区子育てサロン	11月12日（水）	10:30～	千一地区集会所	3
片山地区子育てサロン	11月17日（月）	10:30～	朝日が丘児童センター	2
山二地区子育てサロン	11月19日（水）	10:30～	山二地区公民館	2
吹南地区子育てサロン	11月26日（水）	9:30～	吹南地区高齢者いこいの間	2
山五地区いきいきサロン	11月28日（金）	13:30～	山五地区公民館	2

延べ参加者数 33 名（子育てサロン、いきいきサロン両事業への参加者数 5 名）

※以降、「コミュニティソーシャルワーカー」を「CSW」と表記します。

7 地域福祉活動参加報告

※時間については、サロンの開催時間ではなく、実習として参加した時間（準備や反省会への参加も含む）となっています。

竹見台地区いきいきサロン		10月17日(金)11:00~14:30			
実習者	西村 英毅(青少年野外活動センター)	担当	吉村	社協	森本 加島
	芦田 宏志(福祉総務課)				
内容	<p>11時に竹見台市民ホールに集合した後、参加者、スタッフとともに千里南公園に移動。千里南公園の東屋にブルーシートを敷いて昼食のあと、トイレ休憩も兼ねて千里南公園を散歩。13時頃から再び歩いて竹見台多目的施設に移動し、そのラウンジでコーヒーを飲みながら休憩とおしゃべり。最後に次回のいきいきサロンの案内をして、14時30分に終了。その後も17時までならラウンジを利用可能とのこと。</p> <p>参加者からは、いきいきサロンを楽しみにしていることなどを聞く。途中、全盲の方が朝はヘルパー利用をしているので、ヘルパー利用の終了時間にスタッフが迎えに行っていたのも印象的だった。</p> <p>実習者はそれぞれに参加者の方と話をしたり、スタッフからいきいきサロンの話を聞いていた。</p> <p><参加者> 9名 <スタッフ> 4名</p>				

古江台地区子育てサロン		10月21日(火)10:30~12:30			
実習者	鎌田 智子(市民協働推進室)	担当	吉村	社協	森本 加島 谷村
	馬場 菜津子(福祉総務課)				
内容	<p>10時30分から受付開始。受付担当と、乳母車の整理及び2階への案内、市民ホール前の信号への注意呼びかけなどの案内とに分かれて準備。あいさつの後、親子でおもちゃで遊んだり、ハロウィンの飾りもののクラフトづくりをするなど、参加者は自由に集っていた。実習者は参加者と共に遊びに加わりながら話をし、子育てサロンを楽しみにされている様子などを聞いた。スタッフは直接支援を行うのではなく、周囲から一歩下がった支援をしていた。終了後、スタッフと共に反省会に参加。参加する年齢層が0歳以下が多くなってきたことからサロンの内容も変わってきたこと、来月以降の予定など今後の企画や準備等の話も聞いた。</p> <p><参加者> 43名(20組) <スタッフ> 8名</p>				

千三地区いきいきサロン		10月21日(火)13:30~16:00			
実習者	山根 正紀(人事課)	担当	伊勢田	社協	西(謙)
	青柳 成和(こども政策室) 瀬村 俊(市民協働推進室)				
内容	<p>13時30分に開場設営の準備のため、千三地区会議室へ。千三地区会議室へ向かう途中、CSWより千三地区福祉委員会について説明あり。千三地区会議室では、まずスタッフと実習者の自己紹介と体験実習の趣旨を説明。千三地区福祉委員会では、自治会単位で活動を実施している。いきいきサロンは、毎月2回実施しているが、1回は手芸等を行う会と、もう1回は「うたおう会」。スタッフより、地域に住む高齢者が、元気で生活し、出来るだけ施設に入ることのないように、活動していると説明あり。</p> <p>14時に「うたおう会」開始。参加者はスタッフと一緒に、元音楽の教師でボランティアの伴奏に合わせて、合唱。実習者も、合唱に参加。15時ごろには、お茶とお菓いで10分程休憩。実習者はサロン開始当初は、歌声も小さかったが、終盤頃には雰囲気慣れてきて、積極的に参加していた。</p> <p><曲目> ①赤とんぼ②紅葉③里の秋④牧場の朝⑤夢路より⑥さくら貝の歌⑦山小舎の灯 ⑧知床旅情⑨浜辺の歌⑩朧月夜⑪花の街⑫四季の歌⑬なごり雪⑭遠くへ行きたい ⑮月の沙漠⑯水色のワルツ⑰おさななじみ⑱長崎の鐘⑲鈴懸の径⑳北帰行 ㉑ かあさんの歌 ㉒ 学生街の喫茶店 ㉓ 今日の日はさようなら</p> <p><参加者> 31名 <スタッフ> 8名</p>				



千三地区いきいきサロン（10月21日）

藤白台地区いきいきサロン		10月22日(水)10:00~12:00			
実習者	原田 有紀(市民協働推進室) 向井 雅俊(総合福祉会館)	担当	吉村	社協	谷村
内容	<p>サロン開始前に、地区福祉委員長から藤白台地区福祉委員会の総会資料をもとに、活動内容や委員構成、いきいきサロンの年間行事予定などの説明を受ける。4つのテーブルに6名ずつが座り、実習者もテーブルに着席。まず地区福祉委員長といきいきサロン担当スタッフからのあいさつの後、地区福祉委員主導による太極拳を全員で行う(30分)。その後、藤白台地区と茨木市に在住のシャンソン歌手のボランティアと一緒にシャンソンを歌う。年に1回の恒例行事で、歌詞カードも配られたが、中には歌詞を見なくても覚えている参加者もおられた。何曲かは歌手のみで歌ったが、ほとんどを参加者全員で熱唱。歌手がマイクを片手に席をまわり、マイクを向けられると参加者が歌う場面も。20分経過した頃に、スタッフよりお茶と飴、お菓子が配られる。1時間の「音楽会」終了後には、近隣のお店から取り寄せた手作りおにぎりが2個ずつ配られ、30分の歓談の後に終了。来月はカラオケを予定しているとのことだった。実習者は一緒に歌を歌いながら、同じテーブルの参加者と話し、楽しい時間を共有。終了後、疑問点などを質問し、地区福祉委員長からは、藤白台地区は縦に長いので会場から遠くに住んでいる参加者にとっては移動が大変であることや、そのため参加者の居住地区に偏りが出てしまうことなど、地区の課題をお聞きした。</p> <p><曲目>(歌手のみで歌った歌を除く) ①すみれの花咲く頃 ②銀座カンカン娘 ③千の風になって ④里の秋 ⑤紅葉(輪唱) ⑥遥かなる銀河 ⑦蘇州夜曲 ⑧涙そうそう(いきいきサロンのテーマ曲) ⑨オー・シャンゼリゼ</p> <p><参加者> 15名 <スタッフ> 10名</p>				



藤白台地区いきいきサロン(10月22日)

五月が丘地区いきいきサロン		10月27日(月)13:00~16:00			
実習者	小西 隆夫(障害者くらし支援室) 比果 伸介(建築指導課)	担当	伊勢田	社協	新宅
内容	<p>準備のため、13時に東佐井寺地区公民館へ。前日、文化祭で公民館を使用していたため、「高齢者いきいきの間」で実施。公民館から、イスや麻雀卓などをスタッフと運び出す。</p> <p>13時30分からサロン開始。サロンが始まると、女性の参加者はクリスマスのツリー作り(松ぼっくりにビーズをつけて飾りつけ)、男性の参加者は麻雀をする。実習者は、サロン参加者やスタッフと談笑しながら、ツリーを作っていた。30分ほどしてツリー作りが終わるとお茶とお菓子が配られて、茶話会が開始。参加者の声を聞くと、この茶話会が楽しみで毎月参加しているとのこと。また、スタッフより、サロンは毎月開催しているが、年5回、マンションの集会所に行って茶話会を行う出張茶話会も実施しているとのこと。</p> <p>15時30分にサロンが終わり、後片付けをして、反省会が始まり、実習者も参加。反省会において、4~5年ぶりに来た参加者がいたので、活動を継続することの大切さなどを話し合っていた。市役所への帰路、実習者は、実際の活動だけでなく反省会に参加できて、とても有意義であったと話していた。</p> <p><参加者> 24名 <スタッフ> 9名</p>				



桃山台地区いきいきサロン(10月31日)

桃山台地区いきいきサロン		10月31日(金)12:30~15:00			
実習者	北野 雅一(水道部工務室)	担当	伊勢田	社協	谷村
	安宅 千枝(介護保険課・計画担当)				
内容	<p>準備のため、12時30分に、桃山台2B集会所へ。到着すると、CSWより、桃山台地区福祉委員会についての説明あり。サロン開始10分前くらいになると、徐々に参加者が集まって来る。参加者は、まず名簿に名前を記載し、そのあと体重と血圧を測定する。</p> <p>13時になると、サロン開始。まずはじめに、体をほぐす体操をスタッフ、参加者一緒に行う。実習者も参加。体がほぐれたら、次に玄米入りの布の棒をもって、曲目に合わせて体操する。</p> <p>体操が終わると、アコーディオンの音に合わせて皆で合唱する。(曲目:①みかんの花咲く丘 ②里の秋 ③夢のお馬車 ④ふるさと)なお、4曲目の「ふるさと」は歌いながら手話も実施する。</p> <p>その後、参加者で今月、誕生日を迎えた人に花束と記念品が贈られ、記念撮影。</p> <p>誕生日イベント後、2チームに分かれてスポーツゲームを実施。ペットボトルに砂を入れたものをピンにして、ボールで倒すボーリングや、小コーンを的にする輪投げを行う。</p> <p>実習者も、楽しんで参加し、一生懸命取り組んでいた。</p> <p>スポーツゲームが終わると、お手玉とおはじき遊び。</p> <p>実習者も、各テーブルに入り、参加者とおはじきやお手玉に熱中していた。その後、お茶とお菓子が配られて、参加者と談笑した。</p> <p>実習者は、スタッフが本当に楽しそうに取り組んでいるのを見て、元気をもらったと話していた。</p> <p><参加者> 18名 <スタッフ> 5名</p>				



竹見台地区いきいきサロン(10月17日)

千新地区子育てサロン		11月5日(水)9:30~12:00			
実習者	樋口 雅俊(市民協働推進室)	担当	吉村	社協	西(謙)
	芦田 宏志(福祉総務課)				
内容	<p>千新地区の子育てサロンは、千里新田小学校の学童保育の教室を使って行っているため、9時30分からスタッフが集合して、子育てサロンができるように机を片付けたり、倉庫からおもちゃを出したりしている。実習者も準備に参加。準備をしている段階から参加者が集まってくる。千里山西六丁目、春日、千里山竹園それぞれで色分けされたタックシールに名前を書き、参加者はつけている。色によって居住地が分かることで、参加者同士が話をするきっかけになるようにとのこと。</p> <p>スタッフが挨拶を行うが、基本的にフリースペースで、スタッフは周りからの支援を行っているだけで特にプログラム等は用意されていない。南千里保育園の先生も来て情報提供などを行うが、参加者が必要に応じて相談したりしていた。11時30分までフリーに遊んでもらい、次回の予告をして終了。実習者はスタッフやCSWから、子育てサロンや地区福祉委員会活動の現状や課題について話を聞いた。</p> <p>終了後、反省会にも参加した。実習者が男性で、フリースペースの子育てサロンの中に入って行くことは難しかったようだが、一方でスタッフから、子育てサロンの今までの取り組み経過などを聞くことができ、また参加者の親子の笑顔をたくさん見ることができた。</p> <p><参加者> 40名(19組) <スタッフ> 7名</p>				

高野台地区子育てサロン		11月6日(木)10:00~12:00			
実習者	井上 文子(生涯学習課)	担当	吉村	社協	森本
	眞栄里 涼子(障害者くらし支援室)				
	持永 夏子(生活福祉課)				
内容	<p>10時に高野台市民ホールに集合し、机やいすを片付け、柔らかいマットを敷き、おもちゃを並べて参加者を待つ。参加者が来たら名札を渡し、11時までは自由に遊んでもらう。実習者はまず子育てサロン担当スタッフから1年の流れや取り組み状況などを聞き、以前は保育も行っていたが、今は親子で遊びながら仲良くなってもらうことを目指しているという話を聞く。その後、実習者も参加者にまざって話を聞きながら遊びに加わる。11時になるとみんなでおもちゃを片付け、輪になって自己紹介。南千里保育園の先生による紙芝居や歌体操のあと、11時30分に終了。</p> <p>高齢化が進んでいると言われる高野台地区においても、数多くの親子が子育てサロンに参加されている様子を見て、このサロンの周知がスタッフの地道な声かけによるものであることや、色々と工夫されて取り組んでおられることなどの話を実習者も聞き、肌で感じるすることができた。</p> <p><参加者> 20名 <スタッフ> 10名</p>				

西山田地区いきいきサロン		11月6日(木)12:45~16:00			
実習者	梶山 耕平(情報政策課)	担当	伊勢田	社協	新宅
	三枝 良嗣(福祉総務課)				
内容	<p>12時45分に準備のため、西山田地区集会所へ。まず、現地で、CSWより、社会福祉協議会や地区福祉委員会について、実習者に説明あり。</p> <p>13時になると、いきいきサロン「井戸端倶楽部」に参加者が集まってくる。「井戸端倶楽部」は毎週木曜日に開催しており、10周年を迎えた。毎週取り組み内容を変えており、健康体操や小物作りを実施している日もある。前回は文化祭に出展する小物作りを行ったので、実習日当日は、参加者が気軽に集い、おしゃべりをする場として開催していた。</p> <p>実習者は、「井戸端倶楽部」参加者と同じテーブルにすわり、声を聞いた。</p> <p>参加者は、同じ団地の人と誘い合わせて気軽に参加できるので10年間通っており、来るのが楽しみと話していた。</p> <p>実習者は、参加者の声を直接聴くことができ、貴重な体験ができて、有意義な研修であったと話していた。</p> <p><参加者> 16名 <スタッフ> 4名</p>				



千一地区子育てサロン（11月12日）

南山田地区いきいきサロン		11月10日(月)13:00~15:30			
実習者	湯原 恭子(学務課)	担当	吉村	社協	水田
	馬場 菜津子(福祉総務課)				
内容	<p>準備のため13時に月見が丘集会所へ。CSWから南山田地区の特徴やいきいきサロンについての説明を受ける。南山田地区は集会所などを使ってより近隣の地域でサロンを行っているとのこと。</p> <p>13時30分からサロン開始。まずティータイムで場を和ませ、その後、スタッフが読んで良かった話(おばあちゃんと孫の話)を紹介。その後、スケルトンで頭の体操をした後、歌を歌う。歌はそれぞれ2回ずつ歌い、①夫婦坂、②ここに幸あり、③珍島物語、④四季を愛する人、の4曲を歌う。その後、2回目のティータイムを経て、最後に「今日の日はさようなら」を歌って終了。</p> <p>南山田地区のいきいきサロンは72回目を迎え、6年が経過したとのこと。その間、一度も休まずに参加された参加者が、毎回、歌のためのカセットテープを用意しているとのこと。またスタッフは、毎回、手書きのメッセージを入れて案内を配っているという。手作り心あたたまるサロンに、実習者も自然に溶け込み、一緒にサロンの時間を楽しむことができた。</p> <p><参加者> 16名 <スタッフ> 5名</p>				

千一地区子育てサロン		11月12日(水)10:30~12:00			
実習者	西村 英毅(青少年野外活動センター)	担当	吉村	社協	河原
	古島 亘(市民課)				
	阪口 季三夫(子育て支援課)				
内容	<p>「子育て仲間のつどい」という名称で行っている子育てサロンは、フリースペースで親子で遊びながら仲間を作ってもらう目的で実施している。花見とクリスマスには昼食も提供し、その際はたくさんの親子が来るとのこと。</p> <p>10時30分の開始当初は参加者も少なく、実習者も周りから見ただけで中に入れない感じだったが、「11時30分頃になると盛り上がっているから」とのスタッフの言葉通り、11時を過ぎた頃からお母さんたちの話も盛り上がり、子どももテンションが上がって遊びに夢中になり始め、実習者も子どもと遊びながら、サロンの大切さや意義などを実感していた。サロン終了時には、子どもたちが手を握って離さないほどにつながりができていた。スタッフからサロンの概要などを聞き終了。</p> <p>同じ千一地区集会所内で行っている三世代交流の場「ほっとサロンちさと」も見学し、幼稚園跡地がこのような地域福祉活動の場に使われていることを見て帰った。</p> <p><参加者> 25名(10組) <スタッフ> 5名</p>				

片山地区子育てサロン		11月17日(月)10:00~11:30			
実習者	北野 雅一(水道部工務室)	担当	伊勢田	社協	樋口
	伊勢田 直道(生活環境課)				
内容	<p>10時に、片山地区公民館に集合。そこで、まず、片山地区福祉委員会事務局長より、片山地区子育てサロンの取り組み状況について説明を受ける。平成19年6月から開催しており、33地区福祉委員会の中で、28番目に始めたとのこと。毎月第3月曜日に朝日が丘児童センターで、サロンを開催しており、前月のサロンの写真を掲載した「子育てサロン通信」を毎月参加者に配布しているとのこと。</p> <p>サロン開催前は、多くの参加者が自由に児童センターの遊具を使って、遊んでいた。</p> <p>10時30分に、サロン開始。まず片山保育園の地域担当保育士による子育て体操があり、そのあと風船あてゲーム、そしてボール遊びを行った。</p> <p>ボール遊びでは、参加者とスタッフが一体となって遊んでおり、実習者も参加した。</p> <p>最後に親とスタッフ、実習者で大きな布を使って、子どもを包む遊びを行った。</p> <p>始め、輪になかなか実習者も入りにくそうだったが、終盤には、一緒になってサロンに参加していた。</p> <p>11時30分に片山地区連合自治会長が挨拶し、サロン終了。</p> <p>その後の反省会にも参加し、実習者は、「自分も現在、子育て中であり、地域でこんな活動がされているとは、知らなかった。今後は、子どもを連れて、自分の住む地域のサロンに参加したい」と話していた。</p> <p><参加者> 69名 <スタッフ> 7名</p>				



古江台地区子育てサロン（10月21日）

山二地区子育てサロン		11月19日(水)10:00~12:00			
実習者	泉屋 勇介(国保高齢者医療室) 青野 翔太(産業労働室)	担当	吉村	社協	水田
内容	<p>10時30分からのサロン開始に向け、準備のため10時に集合。朝礼のあと、参加者が来るのを待ちながらスタッフから話を聞く。数日前から急に冷え込んだため、今日は参加者が多いかどうか不安であり、参加人数は天候に左右されることが多いとお聞きする。</p> <p>10時30分頃から続々と参加者が集まり、あっという間に部屋は参加者でいっぱいになった。基本的にはフリースペースだが、頃合を見計り、スタッフの声かけにより参加者が輪になってあいさつを始める。お名前の歌を歌いながら、参加者のお子さん一人ひとりのお名前をみんなで呼ぶ。「名前を呼ばれることで、社会の一員として認められるという思いが芽生えるから」ということで、お名前の歌を歌って名前を呼んでいるのだという。</p> <p>その後、おもちゃ等で子どもたちは思い思いに遊んだり、母親同士で話をしたりしている中に、スタッフも入って話をしたり遊び相手になっていた。実習者は最初はなかなか入っていきえず、遠巻きに見たり、受付に置いてある資料を手を取ったりしていたが、委員さんから「ぜひ中に入って」とお声かけをいただき、子どもたちと遊ぶことができたようだ。</p> <p>正午でいったん終了するが、お弁当を持参した人はそこで昼食。昼からの参加者もいるという。実習者はお昼ご飯の様子を見ながらサロンを後にした。</p> <p>実習者は男性で年齢も若く、なかなか輪に入れなかったが、これからは男性も子育てに参加し、こういったサロンにも来られるといいという思いを持ったようだ。そして、参加者が思ったよりも多かったこと、またお母さんたちの笑顔に、このサロンの必要性を感じたようだった。</p> <p><参加者> 60名(26組) <スタッフ> 10名</p>				



千新地区子育てサロン(11月5日)

吹南地区子育てサロン		11月26日(水)9:30~11:30			
実習者	清水 洋子(指導課)	担当	伊勢田	社協	西(亜) 中野
	三枝 良嗣(福祉総務課)				
内容	<p>9時30分に準備のため、吹南地区高齢者いこいの間へ。まず、始めにCSWより、吹南地区福祉委員会の説明あり。9時45分になると、参加者が徐々に見え始める。</p> <p>吹南地区では、このサロンの立ち上げの際、社協職員と一緒に池田市に視察に行ったとのこと。サロン開始当初は、プログラム形式にしていたが、参加される子どもが増え場所が狭くなり、また0歳児が多くなったので、近年は、特にプログラムを決めてサロンを行うというよりは、お母さんと子どもが気軽に来て、交流し遊んでいける場になっているとのこと。</p> <p>実際、参加者の多くは0歳児のお母さんが多く、お母さん同士友達の人が多かった。また、1年間くらい休まず参加されているお母さんもいれば、「今日、初めてきました」というお母さんもいた。その結果、10時30分ごろになると、足の踏み場もない程、多くの人がサロンに来ていた。</p> <p>スタッフの中には、かつて子育てサロンに参加していて、子育てが落ち着いたので、お手伝いに来ている方もいた。</p> <p>実習者は、スタッフとともに、来月クリスマス会で使用する飾り付けを作りながら、来ていた参加者のお母さんや、子ども達と一緒に遊んでいた。</p> <p><参加者> 32名 <スタッフ> 4名</p>				



高野台地区子育てサロン（11月6日）

山五地区いきいきサロン		11月28日(金)13:00~15:30			
実習者	橋本 通良(生活福祉課) 村本 ちさと(亥の子谷地域保健福祉センター)	担当	伊勢田 吉村	社協	新宅
内容	<p>13時に山五地区公民館へ。まず始めに、CSWより山五地区と山五地区福祉委員会の活動について説明を受ける。地区福祉委員会の活動は、主催者と参加者が一緒になって事業に取り組んでいるということ、地域のネットワークづくりに必要なことは、住民同士のつながりを大切にする、また地域という土壌を育てていくためには、行政サービスや住民活動の活性化という肥料を足していくことが重要であるとのこと。</p> <p>13時20分頃から、福祉委員さんから、参加者に対して、歩くことの大切さについてのお話がある。</p> <p>13時30分からサロン開始。今回は三人の落語家を、招いてのサロン。(千里家笑太郎、関大亭狂角、千里家鈍九里)</p> <p>落語の後は、茶話会が開始。その中で、落語家が参加者に対して、落語についての質問タイムを設け、意見交換をする。</p> <p>そのあと、11月生まれの参加者をお祝いし、「今日の日はさようなら」を、参加者、スタッフ、実習者、皆で合唱し、サロン終了。</p> <p>実習者は、「ここに参加する元気な高齢者を見ていて、元気をもらった、また参加したい」と話していた。</p> <p><参加者> 22名 <スタッフ> 12名</p>				



南山田地区いきいきサロン（11月10日）

8 参加者のアンケート結果

(1) 事前説明会について

実施時期		時間		
適当	不適当	短い	適当	長い
19	0	0	17	2

内容		
よく分かった	分かった	分からなかった
8	12	0

○事前説明会に参加する前の認知度

地域福祉計画			社会福祉協議会		
知っていた	名前だけ	知らなかった	知っていた	名前だけ	知らなかった
10	7	4	14	6	1

地区福祉委員会			CSW		
知っていた	名前だけ	知らなかった	知っていた	名前だけ	知らなかった
6	8	7	9	8	4

○事前説明会への意見

- ・社会福祉協議会のCSWともっと交流を深めたい。
- ・やっぱり吹田の福祉は現場がアツイと思いました。座談会というのは話がはずみにくかったですが、グループワークをして、班ごとに発表するというスタイルが良かったかもしれないが、そうするとまる1日かかってしまう。
- ・グループで話し合う時間は有意義でしたが、自由度が高すぎて少し困りました。
- ・CSWの存在については全然知らなかったし、社会福祉協議会や地区福祉委員会の動きなど全庁的にもっとPRすればいいと思います。
- ・事前説明の際、もう少し具体的に体験実習の内容を教えてくださいできれば少し不安は解消されたと思います。可能であればご検討ください。
- ・細かなことは理解できないので、大まかな部分だけで良い。
- ・社会福祉協議会の担当者のお話が聞けて勉強できました。

(2) 体験実習について

1) 今までの地域福祉活動への参加 あり 3人・なし 17人

2) 体験実習に参加しての感想

- ・日常の業務では、介護保険の認定を受けた方や、その他要援護の方との関わりが主ですので、比較的元気な高齢者の集いに参加できて、大変勉強になりました。CSWより、地域の状況や取り組みの様々な様子を聞かせて頂き、もっと色々知っておかなくてはと感じました。
- ・直接市民と接することが少ない職場なので新鮮だった。
- ・もっと地域の色々な活動に参加してみたいです。例えば介護施設、障害者の作業所、保育園、公民館など。
- ・スタッフの方の努力や創意工夫によって、いきいきサロンや子育てサロンが、その地域にあった交流の場になっていると感じました。和やかな雰囲気、地域内でのネットワークづくりに貢献している活動だと感じました。
- ・サロンの運営が非常にスムーズだと感じた。スタッフは皆、気概に満ちており、いきいきとした雰囲気がつくられていた。「地域」のサロンは若い親たちに安心感を与え、また小さな小さな子どもたちを温かく見守り、育てていくのだと思う。こうした活動を行政が様々な形でサポートしていくのだなあ、と思った。できれば母親たちの話なども聞いてみたかった。
- ・自分の子どもができれば参加させたいと思います。土日の父が参加できる企画があっても良いのではないかと思います。
- ・現場で実際に行われている様子、雰囲気を体験できて良かったです。輪に入っていくのは緊張しました。
- ・いきいきサロン、子育てサロンとも地域の人とのたまり場として重要な位置を占めていることがよくわかった。また、男性がその中でもキーマンになっていて、もっと多くの人が参加して、祭りのようなものもしたりして、つながりがより広めていけたらいいと思う。
- ・同様の活動に参加したことはあったが、吹田市の地区福祉委員会主催の行事としては初めてでした。今回は社協の西さんが分かりやすく説明してくれたので、とても勉強になりました。
- ・今回の体験実習で、初めて福祉委員さんの活動を知りました。ボランティアでこのような活動に取り組まれている福祉委員の方たちは素晴らしいと思います。今後も活動が広まると良いと思います。
- ・元気な高齢者が多いと感じた。そのような高齢者の力を活かすためにも、いきいきサロンのような場所は必要であると感じた。
- ・私自身、子どもが小さいので、積極的に地域の交流の場へ参加していきたいと思いません。
- ・とても有意義でした。お年寄りの方との会話が成り立つのか不安でしたが、相手側から色々話してくださって、途切れる間もない程でした。ご苦労された話を聞いて、行政マンとしてたいへん勉強になりました。
- ・個人的にはCSWの方や地域で活動を支援している方からの生のお話が聞けて、自分の業務にも参考になることがあり有意義だった。もっと時間に余裕を持って臨めなかったことを反省している。
- ・体験実習の後にあった反省会は、ボランティアの方の考えや態度が理解できて良かった。
- ・自分自身の業務に大きく関係するサロン体験実習に参加でき、情報だけでなく実体験を伴う市民への案内や説明ができるようになったので、大変有益な実習だった。
- ・地域の積極的活動を見て参加することができて、勉強になりました。人とのつながりの大切さを痛感しました。
- ・地域の方の顔を見ることができ、より身近な吹田になりました。また、ボランティア

の方の活躍を見て、私自身頑張っていきたいと勉強になりました。これからもこういった活動をもっと広く充実できるような市になってほしいです。

- ・初回からとけこめるような雰囲気があった。
- ・たいへん楽しく参加させていただきました。ボランティアをする人もされる人も共に楽しみながら活動されていることが分かりました。
- ・いきいきサロンに参加させていただきましたが、皆さんものすごく元気でびっくりしました。
- ・楽しかったです。勉強になりました。

3) 実習全体を通じて一言

- ・私は地域保健福祉センターにいる以上、実習だけでなく、今後も地域に出て行く姿勢を保っていかなければと思います。しかしある程度、地域に関わっている職場以外の方もどんどん体験していく必要性は感じます。
- ・貴重な体験ができました。ありがとうございました。
- ・楽しかったです。通年事業として企画し、続けてほしい。
- ・市役所内ではなく、活動されている現場に行くことができ、多くの人のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・こうした体験はなかなかできるものではない。可能であれば福祉保健部や児童部の職員は必須にしろいたいと思う。とにかく現場を見て感じる事が始まりだと思う。また、提案ですけど、3日間にして、1日目に講座、2日目に体験実習、3日目にふりかえりとグループワークというようなスケジュールはどうだろう。ふりかえりがないと、ただやったというだけになってしまう。それにしても福祉総務課担当職員の日々のご活躍にあらためて胸をうたれました！私も頑張っ、吹田の福祉を盛り上げたいと思います！
- ・今後も参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・地域の活動を体験できて良かったです。次の担い手が不足している、補助金が出ないかもしれない、場所が不足しているなど問題がたくさんあることが心配です。
- ・新採研修の中に組み込んでもいいのでは？
- ・実際に現場を見るということは、非常に良いことだと思います。もっと多くの職員が地域と接すれば良いと思います。
- ・これからも続けていくべき実習だと思います。
- ・実習が市役所全体に広がるのはなかなか難しいとは思いますが、がんばっていただきたいと思います。
- ・ぜひ継続していただいて、多くの職員に参加していただきたいです。
- ・私が参加させていただいた地域は、対象となる地域が広く、遠くの方が参加しづらいという問題があったが、役員の方が車で送迎するなど住民同士のつながりを感じた。その反面、いつまでも持続可能かという点では不安なところもあることが分かった。実態を感じるという点で有意義だったと思う。
- ・この体験を生かして市民への還元ができるよう頑張ります。
- ・地区ごとで異なる特色の吹田のまちについて、じかに地域活動を見ることで、地域の力の強さを感じることができました。ありがとうございました。
- ・たくさんの協力者に支えられて市があるのだと実感しました。
- ・複数回あった方が良いと思う。
- ・貴重な体験をさせていただき、有難うございました。
- ・現場実習はときどきは参加させていただきたいなと思いました。